

熊取町議会委員会会議録

議会改革検討特別委員会

令和4年12月14日開催

熊 取 町 議 会

目 次

〔議会改革検討特別委員会〕	
情報発信（SNSの活用）について	1
政策討論会（議員間の自由討議）について	4
その他	8

議会改革検討特別委員会

月 日 令和4年12月14日（水曜）招集

場 所 熊取町役場議場

出席委員	委員長	二見裕子	副委員長	矢野正憲
	委員	田中豊一	委員	浦川佳浩
	委員	文野慎治	委員	江川慶子
	委員	坂上巳生男		

欠席委員 なし

事務局 議会事務局長 林 利秀 書記 道端秀明

付議審査事件

- 1) 情報発信（SNSの活用）について
- 2) 政策討論会（議員間の自由討議）について
- 3) その他

委員長（二見裕子君）皆さん、こんにちは。

皆様方には、本特別委員会にご出席を賜り、ありがとうございます。

本特別委員会では、理事者の出席は求めておりません。

ただいまの出席委員は7名であります。定足数に達しておりますので、ただいまから議会改革検討特別委員会を開会いたします。

（「14時59分」開会）

委員長（二見裕子君）本日の案件は、情報発信（SNSの活用）についてほか1件であります。

なお、発言される方は、挙手の上、着座で、マスクはつけたままで発言していただきますようお願いいたします。また、新型コロナウイルス感染症への対策として、換気のため一部の窓を開けておりますのでご了承ください。

初めに、案件に入る前に、今までの経過を含め、本日の進行についてご報告させていただきます。

熊取町議会といたしまして、議会改革が必要との判断から、令和元年9月議会定例会において議会改革検討特別委員会を設置し、議員定数と報酬の検討や、議会タブレットの導入など、様々な改革項目の検討を行ってまいりました。

そして、さらなる検討の項目として、情報発信の強化を図るためのSNSの活用、政策立案・政策提言を推進するための政策討論会の実施についての検討を行っているところであり、本日、委員会としての検討結果を出させていただくべく会議を開催するものでございます。

それでは、案件1、情報発信（SNSの活用）についてを議題といたします。

去る令和4年3月10日に開催した本特別委員会において、SNSの活用については、前向きなご意見が多数を占めましたが、検討すべき課題があるため、採決の結果、発信するかしないかを含めて継続審議とする旨の確認がなされております。

その経過を踏まえまして、資料①のとおりまとめさせていただきました。

本日に至るまで、継続して議論や調査も行っていましたので、本日は委員会としての結論を出させていただきたいと考えております。

それでは、事業（案）の概要を説明させていただきます。

資料①をご覧ください。

目的は、町議会の活動状況をより迅速に分かりやすく、積極的に情報発信を行うことで、より開

かれた議会を目指すことを目的としています。

次に、活用するソーシャルネットワークサービスはフェイスブックとし、運用管理者の一例として、議長、運用担当は広報委員会委員としております。

掲載する情報につきましては、定例会、臨時会、委員会等の開催状況をはじめ、町議会の事業や議会報告会等の活動に関する情報としております。

年間の発信回数は約130回程度を想定しており、期待できる効果といたしましては、よりリアルタイムでの情報発信が可能となり、より開かれた議会に資することができることとしておりますが、一方で、年間発信の詳細のとおり、相当の事務量が見込まれるところでございます。

以上が事業（案）の概要でございます。

それでは、順次、今回の事業に対する各委員の意見を発言していただきたいと思っております。

まず初めに、田中豊一委員。

委員（田中豊一君）議会アンケートでも、熊取町議会の活動の内容については、あまり知られていないということもあって、議会だより、それから議会報告会等開催しておりますけれども、さらに違う媒体でのPR、それから活動の広がりを行っていかねばならないという認識はございます。

ただし、このフェイスブックというメディアですけれども、見ているというか利用している人が限定されるということもあり、ほかのメディアを使う場合は非常に手間暇と職員の負担が大きいということで、今回の検討でも話題に上がりましたですけれども、将来的にはいろんなメディアを活用していく必要があると思っております。現状では新たな取組についてはなかなか難しいということで、次の新しいメンバーでさらに検討していただくことが今の現状では得策かなというふうに考えますので、今回については、残念ながらソーシャルネットワークサービスを活用した導入については時期尚早ということで意見を述べさせていただきます。

以上です。

委員長（二見裕子君）それでは、続いて浦川委員。

委員（浦川佳浩君）出している議会（案）に賛成であります。

理由としては、これまでも議会SNSの導入ということで、フェイスブックを通した開かれた議会を住民の皆さんに広報していくという形でこれまで議論してきたんですけれども、調査研究していくうちに、やはり非常に作業時間等がかかるということも実態として分かったと。そういった意味では、なかなか費用対効果が低いのではないかとこのように感じています。

今年の11月からLINEによる本会議等の日程等は配信されていくということで、11月から配信されていますので、それによって動画の視聴回数がどれくらい効果が上がっているのかというようなことを含めた上で、また引き続き検証していくべきかなというふうに考えています。今回は、この出している議会（案）に賛成です。

以上です。

委員長（二見裕子君）文野委員。

委員（文野慎治君）開かれた議会、目に見える議会というんでしょうか、そして、より住民の方の身近な議会というふうな形でSNSの活用ということで、この特別委員会で議論をしてみました。効果等については先ほどの委員のほうもおっしゃったような形で、本当にできるものならしたいというのが本来の気持ちであったわけなんです、現実、足元の体制というような形で考えますと、やはり事務局への負担が非常に大きい。我々、視察だとかそういったことでほかの自治体にも行かせていただくわけなんです、そういったときには議会事務局などの状況も見させていただく中で、やはり本町は、予想に比べて議会だよりの発行であるとか、あるいは各議会事務局の職員の負担がかなり忙しくなっている。これも熊取町議会として進んでいるところなんです、ほかの団体に比べて議会の改革、例えばタブレットの導入であるとかそういった形でペーパーレス化というふうな形と、そして議会の見える化というふうな形の中で先行して取り組んでいるわけなんですけれども、そういう事務局の組織体制をそのままの中でさらに負担を職員の方にもおかけしているというよう

な状況の中で、今回、このSNS活用でリアルタイムな情報発信で、より開かれた議会というテーマは非常にこれから目指すべきところで、今の現議員の中での気持ちはそっちの方向には向いております。

次のやはり課題にしなければ、今の状況の中では時期尚早なのではないかなということ、今回、結論（案）としての形の案については、次へのステップとして、今回のこのメンバーでのこの件に関しての議論についての結論としては妥当ではないかなと、このように思っています。

以上です。

委員長（二見裕子君）次に、江川委員。

委員（江川慶子君）皆さんと同じなんです。SNS、やったほうがいいなというのはすごく感じていて、若い子たちに議会に注目してもらおう。それで、分かりやすく親しみをもってもらえるような議会になればいいなと思っていました。この話を重ねていくと、やはり事務量が多いだとかどういったことを伝えていくとか、そういうこともやっぱり個人で出すのと違って、議会ですすんでから一定の責任があるということで、職員の体制の話も出て、これはちょっと今期にするのはもうかなり難しいなということで、結論としての案、出された分で私も賛成です。

それから、LINEについては熊取町のLINEで11月から案内していただきました。それがちょうど熊取町議会の動画にもホームページにも、それに議案にもつなげていくようなやり方でアップして下さっていましたので、すごくよかったなと思っています。そういったことが議会の中でも何か別の形でも広げていくようなことは来期、目指していきたいなと思います。

以上です。

委員長（二見裕子君）次に、坂上巳生男委員。

委員（坂上巳生男君）皆さん述べられた意見とほぼ同様であります。この問題について議論し始めた当初、SNSの導入、時代の状況からしてSNSを活用した議会の情報発信というのは基本的には必要だと、そういう方向で検討すべきだと、皆さん同じ思いであったかと思いますが、いろいろ議論していく中で、やはり事務局の負担が大きいのではないかなというふうなこともあって今回は見送るというふうなことになってきたわけなのですが、そういう議論の中で、一方で町が公式LINEを導入して、その登録者もかなり増えているということで、町の公式LINEに便乗して熊取町議会の会議情報などを発信していくという方向にシフトしてきたわけなんです。今後、それを継続してやっていくというふうな形での結論に至っておると思いますので、その方向でぜひやっていけたらなと思います。

その際に、せっかくたまたま今日の公式LINEを見て議会にアクセスしてきた方が関心を持てるように、議会のホームページをさらに、より一層親しみやすいホームページ、議会の議論の内容が分かりやすいホームページに改善していく必要もあるのかなと感じております。

以上です。

委員長（二見裕子君）次に、矢野副委員長。

委員（矢野正憲君）7月の当初は、開かれた議会として、それからリアルタイムで情報発信をするツールとして、SNSの活用というのはやってやれないことはないのかなというふう感じておったところでもありますけれども、議会もユーチューブの配信等もやっていますので、そういった形でSNSを補完的に使ったらいいだろうというふうには認識はしておったんですが、この間いろいろと調査を行っていくときに、かなり事務作業が大きいというふうなことも分かってまいりました。

同時に、この11月に熊取町がLINEで案内開始というふうなことも始まっておるというふうな大きな出来事もありました。このLINE等を、今回は町がツールを活用しながら今現在も発信をしておるんですけれども、こういった形でSNSの発信の窓口は一本化したほうがいいのかというふうに感じておるところでございます。

よって、議員、あとは議会のほうで単独ですということよりも、町の公式LINE等に乗っかって、ここも効率のいい発信を考えた方がいいのかというふうに思っておりますので、そやから

今、案のとおりでいいのかなというふうに感じております。

委員長（二見裕子君） そうしましたら、最後に私のほうからも発言させていただきます。

今回、さらなる検討の項目を出させていただいたことによって、皆さんのほうでこの町議会の活動、SNSの情報で発信するということが皆さんの中で議論ができたというのは、一つの大きな成果ではないかなというふうに思っております。議会の活動状況をやはり情報発信することで開かれた議会にもなりますし、若い方にも関心を持ってもらえるのではないかなというご意見は皆様一緒であるかなというふうに思っています。

ただ、費用の面で、議会費用をかけずに使用できるものがSNSはフェイスブックだけになるということも少しどうなのかなという点も指摘されておりました。あと、事務作業的なもの考えた場合、まだまだなかなか町議会単独でSNS発信をしていくというのは、将来の検討をしていく課題になるのではないかなというふうに思っております。

今回、町の公式のLINEのほうで、先ほどもおっしゃられていましたけれども、議会の定例会の案内であったりとかというのを情報発信していただきましたので、また今後、そのような形で何か将来的にしっかりと課題を見つけながら、情報発信という部分でまた検討していくべきであるのではないかなというふうに考えております。

ただいま各委員から発言がありました。この委員の発言に対して質疑があれば承ります。質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

以上で質疑を終わります。

それでは、各委員より多数の意見をいただきました。各委員の意見をまとめますと、当委員会としましては、議員おのおのが情報発信を様々行っている中で、議会SNSについても気軽に簡単にできるものと想定しておりましたが、調査の結果、事務作業等の負担が大きいことが判明したことから、今回の検討においては導入を見送るものといたします。

ただし、開かれた議会の推進に向けて、今後も情報発信は必要不可欠であり、また、SNS技術も日進月歩でありますので、導入に向けての検討は今後も継続して行うこととし、LINEによる本会議の日程案内を令和4年11月議会から実施しましたように、できることは積極的に取り組んでいくものとしていきます。

以上、当委員会の審議結果としたいと思っております。これでご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

異議なしと認めます。よって、当委員会の審議結果は、そのように決定をいたしました。

以上で、案件1、情報発信（SNSの活用）についてを終了いたします。

委員長（二見裕子君） 次に、案件2、政策討論会（議員間の自由討議）についてを議題といたします。

去る令和4年3月10日に開催した本特別委員会において、政策討論会の実施につきましては、先進自治体である岸和田市の内容を確認しながら、討論会の検討や内容について、継続研究を進めていく旨の確認がなされております。

その経過を踏まえまして、資料②のとおりまとめさせていただきました。

こちらも案件1と同様に、本日に至るまで継続して議論や調査も行っていましたので、本日、委員会としての結論を出させていただきたいと考えております。

それでは、事業（案）の概要を説明させていただきます。

資料②のほうをご覧ください。

事業の趣旨でございますが、町政に関する重要な政策及び課題に対して共通認識及び合意形成を図り、もって政策立案、政策提言を推進することを目的としています。

次に、討論会の種類としましては、全体会と分科会を設置することとし、初めに全議員から議題を提出していただき、会派代表者会議において各分科会の議題を決定することとしています。

次に、討論会の運営でございますが、分科会は会期月を除く月1回とし年8回、全体会は、各分科会で取りまとめられた討論結果を議題として年1回開催することとし、全体会で議題を取りまとめた後、執行機関へ政策提言を行うこととしております。

また、会議は公開とし、会議結果の概要についても議会だよりをはじめホームページなどを活用して住民に公表することとしています。

以上が事業（案）の概要でございます。

続きまして、先進自治体である岸和田市議会の政策討論会の状況についてでございますが、岸和田市議会も主に全体会議と3つの分科会に分けて設置しており、分科会では毎月議論を行っているとのことでございます。そして、分科会の討論結果を全体会議に報告し、全議員で議論する形態と、その後、提言書を市長に提出しているとのことでございます。3つの分科会は同時に実施し、事務局職員6人が各班に分かれてサポートに入っているとのことであり、本町の議会とは体制的にも大きく異なる中で実施していることが判明しました。

なお、これ以外には勉強会などは実施していないとのことでした。

以上が岸和田市議会の政策討論会の状況でございます。

それでは、順次、今回の事業（案）に対する各委員の意見を発言していただきたいと思っております。

まず初めに、田中豊一委員。

委員（田中豊一君）こちらに結論の案が出ておりますけれども、今、委員長より説明のございました岸和田市議会の政策討論会、先進事例ということでいろいろ調べさせていただいて、実際、熊取町に置き換えてできるかという検討も行ったわけですが、議員の数、また事務局職員の人数、それから、いろいろテーマの持っていく方、熊取町に置き換えればいろいろ無理があるなどというふうなことが判明いたしました。よって、岸和田市議会が行っているような政策討論会でいけば、熊取町ではなかなか進めにくいというのが1つ目の結論です。

それと、本町議会では政策検討勉強会、それから各種住民団体との意見交換会を実施しておりますが、この団体との意見交換会はまだ始まったばかりですので、これをもっと深めていくということが必要なというふうに考えます。

よって今後、住民の意見を聞き、また議員同士の自説、また今の時代に合ったテーマを設定して勉強会をしていくことによって、この目的については達成されるのではないかとということで、政策討論会は導入せずに、熊取町に合った勉強会、また住民団体との意見交換を深めていくと。場合によっては、岸和田市が取っております討論会の結論のように、住民団体の意見と議員の中でまとめれば、議長から町長にこういう意見があったということで実現について提案していくということも可能かなと思っておりますので、ここに提案されている結論の案については賛成させていただきます。よろしく申し上げます。

委員長（二見裕子君）続いて、浦川委員。

委員（浦川佳浩君）今、田中委員がおっしゃった内容とほぼ同じになるんですけども、これまで政策立案、政策提言を基にした、推進することを目的に政策討論会というものを考えてきて、今ご紹介があったように先進的な事例と、自治体ということで岸和田市を参考にこれまで進めてきたんですけども、やはり職員の数であったりとか我々議員の数が大きく違う、自治体の規模が違うというところで、それと同じようなことはできないまでも熊取町独自でできることをこれまで模索してきて、結果的に熊取町の2つの常任委員会でそれぞれの各種団体と打合せ、また面談、意見交換会という形で今年から初めて実施されるようになりました。

非常にこれまでと違った形でそういった団体との意見交換をし、生の声をお伺いすることができましたので、非常にこれまでとは違った意義のある意見交換会になったのではないかと。そういったいただいた課題であったりとか内容を各議員の一般質問であったり、また今、田中豊一委員がおっしゃったように議会としてまとめて、それを町長へ、理事者側へ政策提言していくといった意味では、非常に岸和田市ではないにしても熊取町独自の政策討論会に結びつけるのではないかなとい

うふうに、今年からやり始めたということで、まだまだブラッシュアップする余地はあるものの、これを進めていくことによって岸和田市ならぬ熊取町独自の政策討論会の形になるんだなというふうに期待していますし、やっていきたいなというふうに思います。そういった意味で今回の議会（案）に賛成です。

以上です。

委員長（二見裕子君）次に、文野委員。

委員（文野慎治君）お二人の委員、先にお話しいただいた内容と重なります。やはり、小さいとはいえ熊取町議会として、町政に対して、町長に対して政策提言ができる議会にレベルアップしよう、こういうことがそもそもこの1年間の流れであったなと思っています。

そういった中で、岸和田市が近くでもあるしということで、いろいろ情報を仕入れていただいて聞かせていただきましたが、これもさきのSNSも同じですけども、やはり体制が市と町、あるいは人間的な問題とかいうような中で、なかなかそういう形は同じものを目指しても、やはりそこにはすごく体制を強化しなければ、なかなか当初の目的は達せられないなど。それならば、今の熊取町の現行のこのメンバーの中で何ができるかというのが、先ほど浦川委員のほうからご紹介、田中委員からもあったように、今年初めて常任委員会がそれぞれ常任委員会の今までの役割を少し本来のものと、それと、この言うたら議会改革検討特別委員会の議論を踏まえて、せっかく常任委員会という機能があるんだから、それぞれの自分の委員会の担当に応じた中で政策立案につながるような姿、形をつくっていかうということで、今年、それぞれでそういう体制の中でやってきた中身があると思います。

これが、やはり議員それぞれの政策だとか、あるいは議会全体としてこういう方向でどうなんだろうかということ、その第一歩が今年1年、経験できたのではないかなというふうに思っていますので、さらにそれは次に引き継いでいくための形としては、今回このテーマにおいて出されている結論については、このとおりで賛成であります。さらにそれをやはり次へ、それぞれこのメンバーでの任期というのは3月、4月で終わるわけなんですけど、この財産をやはり次の議会体制の中へ、職員も新体制の中へどう引き継いでいくか、そういったことについてもきっちり検証しながら、この今回得た結論について財産として活用していけたらなというふうに思っています。

以上です。

委員長（二見裕子君）江川委員。

委員（江川慶子君）今回、岸和田市議会がやっている政策討論会の活動を興味深く拝見というか、見ることができて、とても勉強になりました。そういうふうなことで、議員間で討論するってすごく大事だなと。本当は岸和田市に行つてその実際の姿を見たかったなというのはあるんですが、機会が得られなかったんでそこはちょっと残念だったんですけども、その中で、もう先ほども皆さんおっしゃっているとおり、事務局の体制の問題だとか議会の議員の人数の関係だとか、もろもろ考えると、ちょっと岸和田市のようにやはりいかない。まねするのではなくて、やっぱり熊取町独自で、熊取町だからできる、その身近なところで住民と話をし、必要に応じてどうしていくかというのを一緒に話し、意見を出し合つて提案していく、そういうのがすごく大事だなと今回再確認しています。そういう部分でこの結論に賛成しております。

以上です。

委員長（二見裕子君）次に、坂上巳生男委員。

委員（坂上巳生男君）皆さん、おっしゃっていただいた意見とほぼ同様でありますけど、当初、岸和田市に倣つて政策討論会を実施してはどうかということで議論が始まったわけなんです。最初は非常に岸和田市独自の取組をやっているということで興味を持って見ておりましたが、ただ、いろいろと話を伺っていると、岸和田市のほうでも毎年分科会を設けて、テーマを決めて政策提言していくという、毎年毎年の課題を消化していくというふうな形に何か陥っているような感じも見受けられて、必要性に応じて議論していくというのではなくて、毎年何かテーマを決めてやらないといけないと

いう、それはそれで結構難しい部分があるのではないかなというふうに感じておりました。

熊取町では、これまで政策検討勉強会という形でいろんな勉強会をしてまいりましたし、そしてまた政策提言という意味では、例えば近いところでは雨山川災害復旧工事の際に、これは住民団体からの呼びかけもありましたが、いろんなことを議員同士で議論し、そして勉強もして、そして理事者側に対する議会としての要望書といえますか、そういうものをまとめて提言するというふうなこともありました。

熊取町では、岸和田市のようなスタイルではありませんけれども、議員同士で非常に真剣な議論をして政策提言するというふうなことも経験しておりますので、今後も必要に応じてあいつた形で協力、協働して政策提言していければいいのではないかなというふうに感じております。

今回の結論（案）に対しては基本的に賛成であります。

委員長（二見裕子君）次に、矢野副委員長。

委員（矢野正憲君）岸和田市のやり方、岸和田市議会の政策検討会、このやり方は私が思っていた以上に大がかりな制度であったなというふうなことを感じたところでございます。

それと、岸和田市とは事務局の体制も大きく異なっているなというふうなことが分かったわけでありまして、今現実、熊取町議会でも行っていること、政策検討勉強会や各種団体、住民団体との意見交換、こういったことを積極的にやっております。そういったことを通じながら、議員が個々スキルアップを図っていけばいいのかなというふうに考えてございます。

テーマも、議員がそのときそのときに提案をしながらしっかりやっていくというふうな形で、そこから派生して各市町村の視察であるとか政策提言につながっていくのかなというふうに考えております。

冒頭、委員長のほうが言われたこの結論に賛成をするというふうな形でございます。

以上です。

委員長（二見裕子君）それでは、最後に私のほうからも発言をさせていただきます。

今回のこの事業（案）、政策討論会の検討によりまして、熊取町独自でいろいろ取り組んでいることの重要性というのも皆さんで認識ができたのではないかなというふうに考えます。

各種団体との意見交換会を、コロナ禍もありましたので今年度から常任委員会ごとにやることによって充実したものになったなというところと、あと政策討論勉強会も本当に講師の方をお招きしてしっかりと議員のスキルをアップしていくということの充実も図ることができたので、今後、これをしっかりとさらに充実していくことが大事やなというふうに考えました。

あと、その中で各種団体との意見交換の中で、意見をしっかりと議員間で討議しながらまとめられれば、町長のほうに政策提言という形で積極的に提言していくということもできるのではないかなというのを、今回のこの事業（案）の検討によって見えてきたかなというふうに思いました。

以上です。

それでは、ただいま各委員から発言がありました。各委員の発言に対し、質疑があれば承ります。質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

以上で質疑を終わります。

それでは、各委員より多数の意見をいただきました。各委員の意見をまとめますと、当委員会としましては、岸和田市議会政策討論会のような形態では、本町の場合は議員、事務局とも負担が大きく、また、本町議会では既に政策検討勉強会や各種住民団体との意見交換を実施しており、今回の導入の目的を一定達しているものと判断できるところでございます。

したがって、本町議会では政策討論会は導入せず、政策検討勉強会や各種住民団体との意見交換を通じて、町政に対する重要な政策及び課題に対する共通認識及び合意形成を図り、議員の政策立案、議会からの政策提言を推進することといたします。

以上、当委員会の審議結果としたいと思っております。これでご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

異議なしと認めます。よって、当委員会の審議結果は、そのように決定をいたしました。

以上で、案件2、政策討論会(議員間の自由討議)についてを終了いたします。

なお、本日2件の審議結果は、12月20日の本会議におきまして報告をさせていただきます。

以上で、本日の案件は終了いたしました。

その他として、何かあれば承ります。何かございますか。

(「なし」の声あり)

ないようですので、以上で議会改革検討特別委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。ありがとうございました。

(「15時38分」閉会)

以上の委員会の次第は議会事務局長の記載したものであるが、その内容が正確であることを証するため、ここに署名する。

議会改革検討特別委員会委員長

二見裕子